
幌加内町

子どもの農山漁村体験交流計画



令和6年3月
北海道 幌加内町

目次

第1	目的	2
第2	地域の現状	3
(1)	北海道幌加内町について	3
(2)	提供可能な農山漁村体験	5
(3)	子どもの農山漁村体験の実施体制	9
第3	これまでの取組状況	10
第4	継続的な実施体制の構築等に係る課題	11
第5	継続的な実施体制の構築等に係る課題の解決策	15
第6	計画の数値目標の設定	20

第1 目的

幌加内町は北海道のほぼ中央にある上川総合振興局管内に位置し、東西方向に約 24km、南北方向に約 63km と南北に細長い形をしています。

1960 年代初頃までは、林業・農業等も高度経済成長期の波の中、本町の人口も 1 万人を超えるなど活気のある町として繁栄をして参りましたが、林産業の衰退や水田の転作事業による農業者の激減により、昭和 30 年代後半から一気に人口の減少が加速し、後継者ができないままの経営形態を続ける中で、40 年前に労働力の最前線だった現役世代も高齢者の域に達し、少子高齢化の問題も何一つ有効な解決策が見いだせないまま現在に至っております。

本町のような郡部の町は生産年齢人口（若手）の流出とともに、子どもの減少、会社・商店の維持困難による閉鎖、それに伴う不便さの益々の助長による転出など、負の連鎖がやむことがありません。

最終的にすべての源は「人」であり、マンパワーが重要であることは、今更申し上げることもないと思いますが、これだけ人口が減少してしまうと地元の人たちだけでは、町の維持すらできなくなってきております。

国が力を入れ始めた「人材育成」は、世界基準で動く現在の日本における一番大切なポイントであり、いかに優秀な人材を確保するのかが、地方が生き残る最終手段だと考えます。その中でも子どもの教育は 1 丁目 1 番地、すべての基礎であると捉えています。

多様性の理解と支援、個別最適な教育の推進の中で都市部と本町の子どもたちが「ほろかない」という自然豊かなフィールドで交流を深めることにより、地元の子どもたちには、さらなる故郷への理解と心豊かな人材教育推進をすること、都市部の子どもたちには、都市部での課題の解決や体験交流による自己研鑽をすることなど、お互いの成長を支え合い、たくましく生きていく人材を育成するために必要不可欠なモデル的事業といえます。

この計画の策定は、地方での特色ある体験交流事業の創出による関係人口の拡大により、本町での観光産業や商工業の所得の増加、しいては町の持続可能な活性化施策に取り組むという大きな内容を含んでおり、地域課題の解決を図ることを目的に、子どもたちの農山漁村体験交流の指針として作成するものです。

第2 地域の現状

(1) 北海道幌加内町について

■位置と地勢

本町は、上川管内西部に位置し、東西方向約24km、南北方向約63kmと、南北に細長い形をしています。行政面積は767 km²と広大であり、東には名寄、士別市、旭川市及び和寒町、西には小平町・苫前町・羽幌町・遠別町、南に深川市、北に美深町、中川町と11の市町に隣接しており、町役場所在地より札幌市まで道路で149.1km、旭川市は44.8km、名寄市は71.8km、深川市には45.5kmの地点にあります。



町の周囲は国有林や北海道大学雨竜研究林の森林に囲まれ、おおむね山岳が多い地勢となっており、天塩山系のピッシリ山の1,031mを最も高い標高として、幌加内市街地で標高156m、朱鞠内地区で標高250m、母子里で標高287mとなっています。

町の中央を貫流する雨竜川は、一級河川である石狩川水系の一大支流であり、雨竜・天塩・苫前の三郡に跨る高峰ピッシリ山に源を発し、南流すること82kmで石狩川に合流し、流域には大小の盆地が形成されており、肥沃な農耕地、草木地とともに、母子里・朱鞠内・添牛内・政和・幌加内の5つの市街地が形成されています。

また、北部には、日本最大の湛水面積を誇る人造湖の「朱鞠内湖(表面積 23.73 km²)」があり、周辺一体は北海道立自然公園地区に指定されています。

気候山岳に囲まれた盆地のため、内陸性で夏は高温多湿で冬は寒冷多雪、通年の寒暖の差が70℃を超えるほどの昼夜の気温差が大きい気象状況です。

■3つの日本一

【日本最寒記録-41.2℃】

1つ目は上述の寒暖の差が激しいということですが、夏は35℃以上になる日があるほか、昭和53(1978)年2月17日、最北に所在する母子里地区の北海道大学雨竜研究林事務所非公式ながらマイナス41.2℃という日本の最低気温が観測され「日本一の最低気温の町」として有名です。



これを記念し、この日は一般社団法人日本記念日協会で「天使のささやき(ダイヤモンドダストの別称)記念日」として登録されている。この地を訪れた人には「日本最寒の地」到着証明書も交付されます。この寒暖の差が3つ目に紹介するおいしい「そば」にも大きく影響しています。

【日本最大の人造湖 朱鞠内湖】

2つ目は周囲40kmで人造湖の湛水面積としては日本一、道立自然公園にも指定されている「朱鞠内湖」です。

この湖には、国内最大の淡水魚で幻の魚といわれる「イトウ」が生息しており、アングラーやキャンプ客をはじめ「アウトドアの聖地」として人気のエリアです。

冬は湖面に穴をあけてアイスフィッシングによるワカサギ釣りを楽しむことができます。釣りにまつわる、ふるさと納税の返礼品も需要が高く地域の経済を支えています。

また、このエリアにある「ふれあいの家まどか」では宿泊体験研修が可能で家族から学校単位まで幅広い人たちの自然教育を担っております。さらに令和5年12月より、この施設内にサテライトオフィスが設置され、テレワークの受け入れなど新たな事業展開も期待され、今後はさらなる利用者の増加が見込まれています。



【そば畑の面積・収穫量日本一】

3つ目はそばの作付面積・生産量が日本で一番の「そばの里」であることです。これは他の追随を許さないほどの生産量であり、全道の約14%、全国のそば生産の約5%を占めています。

そばに関連する地元事業者も多くなり、地域の特産品やふるさと納税返礼品のほとんどをそば商品が占めています。

さらに、地元町立の幌加内高等学校では、「そばの授業」を必修科目とするなど、特色を打ち出しており、そば打ちの有段者が人口の5人に1人いるなど町を挙げてそばに力を入れています。

町としての魅力は多々ありますが、プロモーション不足や支えるマンパワーの不足等により、人口流出が止まらず、疲弊していく本町にとって、この雄大な自然、恵まれた食による交流人口の確保は、まさに死活問題であり、体験交流を通して、住民・地域が活性化し、町内に経済的波及効果をもたらすこと、さらに本町の子どもたちや住民が心豊かな成長を図ることを目指しています。



(2) 提供可能な農山漁村体験

No.1 北海道大学雨竜研究林ガイドツアー



日程:1泊2日(冬期間) 対象者:小学生(4年~6年生) 対象人数:5名程度

1日目

- 11:20 集合…初めの集い
- 12:00……………昼食
- 13:00……………森のたんけん
(森の中にクイズがあるぞ)
- 14:40……………答え合わせ
- 15:30……………イグルーづくり
(スノーランタンづくり・焚火)
- 17:30……………夕食
- 19:00……………宝さがし作戦会議
- 19:30……………森のハンドメイド
- 20:00……………自由時間(お風呂)
- 22:30……………消灯

2日目

- 07:30……………朝食
- 09:00……………森の宝をさがそう
(知恵と力を合わせて宝をさがそう)
- 11:00……………自由時間(宝の山分け)
- 12:00……………雪原パーティー(昼食)
- 13:00……………雪原で遊ぼう
- 13:30……………お別れの集い・記念撮影
- 15:00……………解散



※自然豊かな北海道大学の研究林内を活用し、森に関する知識学習や冬の外遊びの楽しみを通して地域の魅力の再認識と仲間との交流を深めていきます。

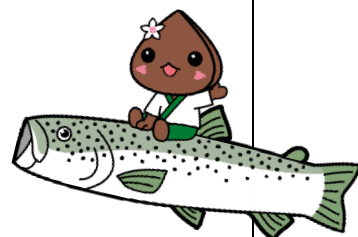


No.2 イトウの孵化場見学(生き物の生態学習)



日程:日帰り 対象者:小学生・中学生・高校生 対象人数:10名程度

- 10:00.....朱鞠内湖漁業協同組合事務所前集合
- 10:05.....バスにて移動(バス内でオリエンテーション)
- 11:00.....現地孵化場見学・採卵体験など
- 11:50.....バスにて移動(バス内で今日の感想等終わりの研修)
- 13:00.....朱鞠内湖漁業協同組合事務所前解散



※希少な「イトウ」という朱鞠内湖の魚の生態等に触れることで、命の大切さや自然の大切さを学習し、人と動植物が共存して住み続けられる地域を考える機会とします。



No.3 まどか宿泊体験

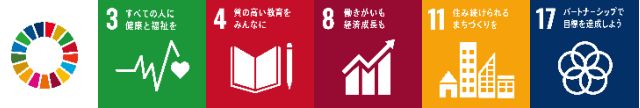



日程：1泊2日 対象者：小学生・中学生・高校生 対象人数：5名程度	
1日目 10:00 集合…入所式 10:30……ダム見学 12:00……昼食(ホットサンドづくり) 13:00……母子里孵化場見学 北大研究林施設見学 15:00……木エクラフト 18:00……夕食 20:00……自由時間(入浴)	2日目 07:00……ラジオ体操 07:20……朝食 08:00……ピザづくり 11:30……昼食 13:00……退所式 

※集団行動を通して集団生活の過ごし方を学び、お互いに助け合う態度を伸ばしながら、自ら計画を実行することで、企画する力や責任をもって行動する力を身につけ、積極的に体験活動に取り組んだり、自然に親しむことを目的にしています。



No.4 山村留学のお試し体験・新たな自分探し「気分フレッシュ・リフレッシュ」



<p>日程:2泊3日(8月中旬ごろ) 対象者:小学生3年生~中学2年生 ※保護者同伴 対象人数:2組~5組程度</p>	
<p>1日目</p> <p>11:30 集合...各最寄り空港から旭川空港 を經由し、幌加内へ (空港からバス移動)</p> <p>11:30.....昼食・オリエンテーション</p> <p>13:00.....そば打ち体験・自然体験</p> <p>17:30.....夕食</p> <p>19:30.....自由時間 (入浴)</p> <p>22:00.....消灯</p>	<p>2日目</p> <p>07:30.....朝食</p> <p>09:00.....自由選択(体験・視察・交流等) ※フリータイムです。 ※保護者はテレワークも可能です。</p> <p>12:00.....昼食</p> <p>13:00.....各学校との交流 (山村留学の紹介・質疑応答など)</p> <p>17:30.....夕食(懇談会)</p> <p>22:00.....消灯</p>
<p>3日目</p> <p>07:30.....朝食</p> <p>09:00.....親子で自由行動</p> <p>12:00.....昼食</p> <p>13:00.....解散 バス移動旭川空港を 經由し各最寄り空港自宅へ</p>	 <p>スケジュールは一例です。 日数やタイムスケジュール 研修の内容は要相談となります。</p>

※都市部の子どもたちは、お試して山村留学の体験を通して自分を見つめ直す機会の確保を目的とし、地元の子どもたちは都市部の子どもと触れ合うことで、地元の魅力を再認識するとともに、地元とは異なる生活や情報を吸収して、仲間づくりを行います。

保護者は、サテライトオフィス等の活用により、テレワークの可能性を体験して、将来的な移住定住の可能性を検討する機会、また地域としては、人口の増加や持続可能な地域の活性化を目指していきます。

(3) 子どもの農山漁村体験の実施体制

■事業受け入れ体制

○活動目的と役割

この協議会は都市部の子どもたちとの相互理解の場としての地位の確立、さらには都市部の多くの課題等を有する子どもたちの「リフレッシュ」「リスタート」「リボーン」という「3Rの場」を担い、今後の子どもの受け入れ促進を図ることにより、山村留学生や移住者の増加を目的とした体験交流を進めるため、(仮称)幌加内町子ども農山漁村体験交流協議会(以下「協議会」という。)を設置します。

幌加内町子ども農山漁村体験交流協議会	
(役割) 協議会は、幌加内町子ども農山漁村体験交流に関して必要な事項を協議・実践します。	(構成員) 協議会の会員は15人以内で組織します。 (1)教育機関関係者 (2)商工観光業関係者 (3)山村留学推進協議会関係者 (4)町職員 (5)その他、教育長が特に必要と認める者

※現在の構成予定メンバーは次のとおり

<p>【構成予定メンバー】</p> <p>幌加内町立学校</p> <p>朱鞠内小学校・幌加内小学校・幌加内中学校・北海道幌加内高等学校</p> <p>朱鞠内小学校山村留学推進協議会</p> <p>幌加内町観光協会</p> <p>NPO 法人 シュマリナイ湖ワールドセンター</p> <p>北海道大学雨竜研究林</p> <p>幌加内町役場</p> <p>地域振興室・産業課・保健福祉課・朱鞠内支所</p> <p>【事務局】</p> <p>幌加内町山村留学推進室</p>

第3 これまでの取組状況

幌加内町では既存の宿泊体験研修施設を活用しながら近隣の小学校、中学校をターゲットに自然体験学習を進めてきましたが、地元の子どもたちと都市部の子どもたちとの地域の豊かな自然環境を活用した教育交流推進事業を実施しておらず、地元の子どもたちは自分たちだけの郷土学習、周辺地域からの子どもたちもインストラクターによる幌加内町の自然体験を自分たちのグループのみで体験してきていた現状にあります。

今回この農山漁村交流事業の活用により、町民や地域が活性化し、町内に経済的波及効果をもたらすこと、さらに、本町の子どもたちや町民が心豊かな成長を図ることを目指しています。

現在までの取り組みとしては、移住・定住・関係人口の分野では町の地域振興室が中心となり、都市部での移住定住相談会の開催や移住体験住宅の整備、企業や個人事業主が町内でテレワークを可能とするため、町内2箇所にサテライトオフィスを開設するなど、環境整備を図ってきています。

その他、町のホームページや SNS、関係機関とも連携し各種広報媒体を活用したイベント情報、地域の魅力発信を行ってきています。

観光・交流の面では、町の産業課が中心となり、町観光協会や NPO 法人、幌加内高等学校などと連携し、地域の特産品開発・販売やそば打ち体験、朱鞠内湖周辺での体験など、地域の特色あるアクティビティを活用し、地域との交流を織り交ぜた観光振興を行っています。

さらに、教育分野では高校生の地域みらい留学の取り組みや朱鞠内小学校での山村留学の推進など、人口減少の中で生き残りをかけた様々な取り組みを実践してきています。

今後はこの活動を基軸にさらなる関係・交流人口の増加による移住定住者の確保、児童生徒の確保を目指しながら、それに関係する地元住民の雇用の場の確保や所得の確保など、地域活性化を図るべく事業の推進を図っていきます。

第4 継続的な実施体制の構築等に係る課題

(1) 窓口を務める組織や人材の確保

関係部署、関係団体との連携強化	
<p>教育機関との連携</p> <p>送り側、受入側の学校や教育委員会などの事務局、町内関係機関や団体などと協働してプログラム内容を精査する必要があると考え、今後、関係部署や関係団体との連携をより推進していくことが必要となります。</p>	<p>農林水産業・商工業・観光業との連携</p> <p>現在の農業・林業、水産業等における地域的課題、インフラ整備や自然環境の変化、地域での新しい取組みを子どもたちに伝えたいと考えています。</p> <p>町内での農業者等による体験プログラムの提供を充実することで、送り側へのアプローチの強化や魅力向上を図ることが必要であり、そのためには、町内の農林水産業・商工業・観光業者との連携を進めることが必要となります。</p>
<p>周辺自治体との広域連携</p> <p>今後、新たな受入を進めていくためにも、幌加内町単独ではなく、周辺地域との連携した取り組みが必要であると考えます。</p> <p>本町では、近隣士別市、剣淵町、和寒町の1市3町が一体となった着地型観光推進協議会と日台親善協会を平成28年に設立し、観光マーケティング、プロモーション、国際交流を行っています。これらの枠組みも活用しながら、子ども農山漁村交流事業の受入を推進することが有効であると考えます。</p> <p>近隣であっても、住んでいるまち以外のことは知らないという子どもたちは多く、相互の理解を深め、道内外の小中学生及び高校生の受け入れについても、関係自治体との連携により、効果的な推進を図ることが必要です。</p>	

宿泊滞在施設の充実

宿泊施設との連携強化と普及啓発

既存の体験型宿泊施設やスキー場など季節によって利用のばらつきが課題であると考えています。安定した受け入れ態勢の整備と、普及啓発を進めることが必要です。

受け入れ窓口の充実

受け入れ窓口の人材

受入側の地域住民や職員などの高齢化により、地域内の次世代を担う新しいキーマンの育成が必要な状況にあり、外部人材を含めた人材確保が必要です。

(2) プログラムの高付加価値化や他地域との差別化

地域の資源を活かすプログラムの充実

参画する地域住民・事業者

農林水産業の体験については、1次産業に携わる地域住民が体験交流の受け入れに参画し、環境にとって持続可能な産業形態であるかを省みて、自らの在り方を問い直すことが必要と考えます。

そのことにより、教育効果と環境に配慮したプログラムへと充実を図ることにつながります。

地域資源の価値を高めるプログラム

幌加内町には、山・川・森・湖の自然、農業を主とした1次産業や観光フィールドとしての雪や寒さなど多くの資源があります。

それらを体験プログラムとして活用することで、地域資源の価値を高める視点が必要であり、そのことが幌加内町の体験の独自性を強めることにつながると考えます。

また、SDGs に沿った取り組みを行うことで世界共通の認識力を高めます。

送り側のニーズに対応するプログラムの充実

ニーズに合ったプログラムの開発

昨今、都市部の多くの目的・課題を有する子ども達の「リフレッシュ」「リスタート」「リボーン」という「3Rの場」が必要であるとのニーズを受け、幌加内町には3Rに関連する多くの地域資源があり、これらを活用し、充実した教育効果を持つプログラムの開発が可能であると考えます。

教育関係者の参画

宿泊体験研修活動としての児童生徒への教育効果が高い内容とすることが必要です。

ただし、その効果検証については専門性が必要であるため、外部有識者や専門家、学校の教師、教育委員会など教育関係者の知見を活用することが必要です。

地域間連携、関係人口創出につながるプログラムの充実

都市部側・農村部側の同世代の子ども同士の交流

多様性の時代において、都市部に住んでいる子どもは、3R を実践するのに合わせて、農村部の現状を知り地方が抱えている問題に向き合う機会が必要と考えます。

特に、同世代の子ども同士が交流することで、都市部の子どもが生活をしている場所には無い、農村部の魅力的な自然や歴史的な遺産等に気付くことによって、子どものうちから子どもの目線で、地域創生の重要性について学ぶことにつながります。

このような同世代の子ども同士の交流を促進することが、今後の都市間交流の促進にも繋がります。

また、平和問題や環境問題は都市農村の区別なくつながっている共通の課題であることを、学ぶ機会にもなります。

(3) 送り側とのマッチング・プロモーション・情報発信の充実化

対外的な情報発信

ターゲットの設定

小中学校や高校の修学旅行、それ以外の学校の宿泊交流活動や社会教育事業としての受け入れ、また、日帰りでの体験受け入れ、インバウンドの教育旅行など、各種教育旅行の受け入れなど、各送り側とのマッチングによるタイプ別対応を行う必要があります。

ターゲットへのアプローチ

「3R の場」を求める都市部の学校や教育機関へのPR活動、修学旅行や修学旅行以外の学校の宿泊交流活動や社会教育事業としての受け入れなど各タイプに対応した旅行会社や関連のあるメディアなどへの発信が必要となります。

地域内での理解促進

地域住民や事業者の誇り醸成と理解促進

子どもたちに幌加内町のことを知ってもらい、地域住民や事業者自らもその価値を顧みる、誇りを再認識することが重要であると考えます。そのため、広く地域の関係者に参画してもらうことが重要です。

(4) 体験や宿泊を提供する実践者の確保・育成、受入体制の整備

地域住民・事業者の参画

参画する地域住民・事業者の確保

今後、多くの子どもたちの受け入れを進めるにあたっては、現在関わっている住民や事業者の他にも、多くの方々の活躍が必要になります。

ガイド人材不足

企画運営・体験交流のできるガイド人材確保・育成が必要

暮らしや風習、定置網の秘密、不思議な建物など、独自の視点を持つガイドと歩けば、まちのあちこちに潜んでいた面白さが浮かび上がってきます。

また、そのまちへの愛着、教養が身に付くことで関係人口の創出に繋がります。そうした、企画運営・体験交流のできるガイドの人材育成が必要と考えます。

併せてそれら地域人材との連携強化に向けた環境整備が必要となります。

(5) 子どもの農山漁村体験に取り組む事業費の確保

事業費の確保

国等の補助事業の活用

事業の推進に当たっては各事業者の協力はもちろんのこと、国等の補助事業を活用することにより、運営費や活動事務に当たる経費を確保し、事業の円滑な推進に努めるものとします。

第5 継続的な実施体制の構築等に係る課題の解決策

(1) 窓口を務める組織や人材の確保

継続的な実施体制の構築等に係る課題の解決策

関係部署、関係団体との連携強化	
<p>教育機関との連携</p> <p>町内小中学校の児童・生徒による体験の実施を通じて、内容のモニタリングを進めることに取り組みます。</p> <p>また、外部からの子どもたちの受け入れ時の町内小中学生との交流を合わせて実施することにも取り組みます。</p> <p>幌加内高等学校や北海道大学等と連携し、学生による資源のさらなる掘り起こしや、プログラムの提案などを積極的に進めていきます。</p>	<p>農林水産業・商工業・観光業との連携</p> <p>農林業体験での、農業協同組合や木育マイスター、体験受け入れができる「ふれあいの家まどか」との連携や、漁業体験での、朱鞠内湖淡水漁業協同組合や NPO 法人などとの連携、幌加内町の商工業事業者、観光事業者などとの連携を進めます。</p>
<p>周辺自治体との広域連携</p> <p>今後の受け入れを進めるにあたり、多様な体験プログラムの実施を可能とするため、また宿泊の受け入れの補完としても近隣市町村との連携を図ります。</p> <p>道内外の小中学校及び高校から体験交流の受け入れについて、周辺自治体との連携を図ります。</p>	<p>都市部送り出し側地域との連携</p> <p>子どもたちの交流を契機として、幌加内町と送り出し側の地域とのつながりの強化を狙います。</p> <p>観光交流での相互交流、幌加内町の特産品販売や人的交流の取組を進めます。</p>

宿泊受入体制の充実

宿泊施設との連携強化

子どもたちの宿泊体験活動の受け入れに向けて、町内の体験型宿泊研修施設やスキー場などとの連携を図ります。

また、宿泊施設での地元食材の提供や集団学習の場の提供などについて、検討・調整を進めます。

受入体制の整備

体験・宿泊の受け入れ窓口の構築

幌加内町での子どもたちの受け入れについて、体験プログラムと宿泊の調整、民泊事業の構築や新たな体験プログラム構築、事業PRや受入対応窓口となる体制構築を図ります。そのための人材確保・育成に努めます。

(2) プログラムの高付加価値化や他地域との差別化

地域資源の活用によるプログラムの開発

地域住民・事業者の参画

体験プログラムにより、子どもたちが、「ほろかない」の自然や産業、生活、地域づくりを深く学ぶこと、また、幌加内町の人々の生きざまを伝えることを狙います。

そのために、地域の住民・関連事業者が子どもたちを現場に受け入れ、ガイドとして活躍いただけるように、事業の狙いの周知や参画の動機付けを図ります。

地域資源の価値を高めるプログラム

幌加内町の、山・川・森・湖の自然や農業を主とした1次産業や観光資源としての雪や寒さなどについて、子供たちの学びにつながるようプログラムとして構築します。

幌加内町の昔からの暮らしの知恵、山や川などの自然とのつながりに基づいた文化風習などについても、子どもたちに地域の誇りと社会的意義を伝えるプログラムとして構築します。

教育効果の高いプログラムの開発

SDGsに関連付くプログラム開発

幌加内町にある、気候変動や森林破壊、エネルギー問題、地域の高齢化・担い手不足など、持続可能な地域づくりへの課題に関連する資源を活用し、SDGs関連学習として教育効果を持つプログラムの開発に取り組みます。

例えば、北海道大学の研究林をフィールドに原始林や河川の活かし方や木々の植生状況などを学習し、環境問題に興味を持つ、貴重な学習資源となります。

教育関係者の参画

プログラム開発にあたり、地域資源の活用や地域の農業者、林業者のほか、地域住民や専門家などの協力のもとで推進しますが、教育効果については、専門家や学校の教師、教育委員会など教育関係者の参画のもとで検討・検証を進めます。

地域間での連携強化のためのプログラムの開発

都市部側・農村部側の同世代の子ども同士の交流

地元の子どもたちと「一緒に農山漁村体験を実施する」、「一緒に地域課題を考える」、「社会問題を考える」など、普段一緒ではない子どもたち同士の交流は、送り側からも効果的だと評価される内容であることから、幌加内町の小中学生及び高校生等が、他地域からの子どもたちと交流する場づくりを行います。

(3) 送り側とのマッチング・プロモーション・情報発信の充実化

ターゲット層への情報発信

ターゲットの設定

都市部で問題を抱え、新たな自分探しが必要な子どもたちに対し、「3R の場」としての幌加内町のフィールドを提供し、活用及び魅力を知ってもらうことはもちろんですが、小中学校や高校の修学旅行、それ以外に学校の宿泊交流活動や社会教育事業としての受け入れ、また、日帰りでの体験受け入れ、インバウンドの教育旅行など、各種教育旅行の受け入れの各タイプに対応するターゲットの設定を行います。

現状は、近隣の小中学生の受け入れがあることから、道内の小中学校への発信や、道外の都市部とのつながりを活かした交流の実施、幌加内町での自然、農林水産業、雪や寒さを組み合わせたプロモーションによる全国の高校からの修学旅行受け入れなど、戦略的にターゲットの設定を行い、交流人口の増加と併せて地域の活性化を図ります。

旅行会社などへのアプローチ

旅行会社へのプロモーションや関連のある地域へ直接発信、SNSやメディアを活用した発信など、多角的に各ターゲットに対応したアプローチに取り組みます。

地域内での理解促進

誇りの醸成と社会的意義

地域住民や事業者にも子ども農山漁村交流の意義を理解いただき、地域がねらう経済的効果や社会的意義について理解を図る必要があります。そのために、ニュースレターの発信、ホームページ、SNS 等による発信等、地域住民や事業者などが取組みを理解し、協力者となってくれるよう情報提供に努めます。

(4) 体験や宿泊を提供する実践者の確保・育成、受入体制の整備

地域での動機付け

地域住民・事業者を対象とした研修会

子どもたちの受け入れについての教育的効果や地域にとっての意義、その楽しさなどを伝える場づくりを行います。地域の方々を対象とした説明会や先進地視察などを通して、周知・理解を進め、参加・活躍してくれる方々を増やします。

民泊実施についても、その方法、具体的に実施すべきことなど、他地域での実践者などを招いた研修会の開催、先進地視察など、実施に当たったの配慮事項、安全管理などについて学ぶ機会を作ります。

ガイド人材の育成

企画運営・体験交流のできるガイド人材確保・育成

体験交流について、ガイドができる人材の育成を図ります。体験交流の受け入れを実施している方々や専門家からの指導の仕組みを構築します。

また、ガイド人材同士の情報交換・交流の機会創出に取り組みます。

(5) 子どもの農山漁村体験に取り組む事業費の確保

事業費の確保

国等の補助事業の活用

国が唱える子ども支援対策は、非常に重要なことではありますが、その中でも最も重要なことは、「教育の充実」であります。

将来を担って立つ子どもたちに自分の地域のすばらしさを十二分に認識してもらい、幌加内町に誇りをもって活躍してもらうためにも農山漁村体験交流を通じ、豊かな心の育成を目指します。

そのためにも国の事業補助を中心に関係機関への理解を求めるとともに、支援のさらなる拡充に向けた要望やふるさと納税を活用するなど事業費の確保に努めます。

第6 計画の数値目標の設定

■年間の受入人数／件数

交流人口の増加に向けて宿泊体験受入人口の増加を図ります。

	現 状	5 年 後	1 0 年 後
受け入れ人数	0 人	50 人	100 人

■継続的に子どもの農山漁村体験で来訪している学校／送り側地域の数

送り側と連携して、事前学習・実施後フォロー等の取り組みを実践します。

	現 状	5 年 後	1 0 年 後
教育効果のある 交流事業数	0 件	2 件	5 件

■町内の体験提供者（実践者）の人数

体験プログラムを受け入れることのできる地域のガイドを確保、育成します。

	現 状	5 年 後	1 0 年 後
ガイド人数	5 人	6 人	8 人

■研修会の開催回数／のべ参加人数

体験に合わせて今後のプログラムの見直しや、ニーズ把握のため研修会を開催します。

	現 状	5 年 後	1 0 年 後
研修会開催回数	0 回	2 回	4 回
のべ参加人数	0 人	20 人	40 人